

小教区評議会役員研修会報告

■テーマ： サイクルテーマ 1①「教会と福音宣教の理解」

「兄弟である」わたしたちが「兄弟となる」ためのシノドスの教会（ともに歩む教会）」

■対象： ブロック担当司祭、協力司祭、宣教司牧協力者、小教区評議会役員

■講師： 西村桃子氏(セルヴィ・エヴァンジェリー宣教会)

教皇フランシスコ回勅「兄弟の皆さん」翻訳者・第16回シノドス第一会期に議長代理

■日時： 2024年6月15日(土) 14:00~15:30

■開催方法： ZOOM ミーティング

■参加人数： 約65名(うち司牧担当者6名) 端末数58

■内容： シノドスの教会がめざす宣教を模索し、シノドスの理解を深める

西村桃子氏 講話 要旨

「すべての人に、どうすればわたしたちはより『ともに歩む(シノドス的)』教会になることができるのかを聴いて欲しい」との教皇フランシスコの呼びかけのもと、「ともに歩む教会のため～交わり、参加、宣教」をテーマに行われている今回のシノドスは、枢機卿と司教だけで行われてきたそれまでのシノドスと異なり、参加者みなが兄弟として丸テーブルを囲み、多くの女性が参加し、司祭、奉獻生活者、信徒にも発言権、投票権が与えられた初めてのシノドスであった。会議ではすべての討議要綱が「霊における会話*」によって話し合われた。これはシノドスの手法と言われ、グループ全員に平等に発言時間が与えられ、祈りのうちにお互いの話を聴き合い、聖霊の思いは何かをグループで識別する方法であり、少数の反対意見も大切にされる。「どのようなプロセスで結論に至ったかが大切」と教皇が言われるように、教会で大切な事柄を決定するときも少数の人で決めてしまうのではなく、皆の意見を聞き、皆で決める。そうすることで参加した人の共同責任、積極性も違ってくる。この手法を教会の様々な現場で取り入れることで、少しずつ「ともに歩む教会」になっていくのではないだろうか。

すべての人は神さまの子どもである。すでに兄弟であるわたしたちは、『兄弟である』人々のところへ出向いて行ってともに歩む選択をすることで兄弟となっていくことが「ともに歩む教会(シノドスの教会)の道なり」なのだと思う。

※参照：「霊における会話」カトリック中央協議会 HP のシノドスページに実践方法が紹介されている。

↓

<https://www.cbcj.catholic.jp/wp-content/uploads/2024/01/conversation-in-the-spirit.jpg>

また、資料4頁～7頁には詳しい実施方法が書かれている。

大塚司教コメント

京都教区では各教会に複数の役員がいて、同じ立場で役割を分担しリーダーシップを取っている。メンバーが交替できる仕組みがあり皆が協力している。「分かち合い」という言葉をよく使い、会議というより皆で考えをシェアしながらものごとを決め、実践している。

分かち合いの質や方法は、テーマやものごとによって違うと思うが、多くの問題の中でよく考えて教会の方向性を決める時、小教区のあり方の根本的なことを考える時などには、拙速に決めないで「霊における会話」によって祈りの中で聖霊の導きに従って方向性を見出していくことが、シノドスの教会を支えてくれると思う。

やってみないと分からないが、自分の考えが変わる、ふくらんでいく体験は、聖霊の体験であると思うし、教会はこのようにあってほしいと思う。

福音宣教企画室ふりかえり

シノドス第16回通常総会第一会期、その準備段階の大陸ステージ(アジアシノドス)から関わって来られた西村さんのお話は、役員の方々にとって興味深い内容となったようだ。

また、話の合間に沈黙と祈りの時間を取りながら進められたことは印象的で、聴いたことを思い巡らし祈る時間があることで、頭や気持ちを整理して、自分の中で内容を深めることができたように思う。

「霊における会話」については、なによりもまず体験することが大切であり、やってみて初めてわかり、身についていくものであると思う。これまでも分かち合いを重ねて深まりを体験することができたように、「霊における会話」も、まず、少しでも多くの方がやってみようと思ってもらえるように、まずは役員交流会で、そして今後の講座などで取り入れていく予定。

役員ふりかえりよりまとめ

シノドスの歩みは世界の皆と手を取り合い、大きな仲間とともに歩んでいると感じることができた。「霊における会話」については、どれだけ実践できるかは疑問としながらも、会議などで(行き詰まったり、空気が悪くなった時)取り入れていきたい。